

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100182		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム ハイブリッジ(1丁目)		
所在地	栃木県宇都宮市若松原1-11-10		
自己評価作成日	平成 25年 9月 27日	評価結果市町村受理日	平成25年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成 25年 10月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に入居者様が笑顔でお過ごしいただけるように、日々、丁寧な接遇を心掛けています。また、活気ある日常生活を提供できるようにレクリエーション、外出、外食支援、季節行事に工夫を凝らしています。各フロア間の交流に配慮し定期的に全体でのお茶会を企画し、入居者様間のふれ合いを大切にしています。イベントではご家族様、地域の方、民生委員、包括支援センター職員、各ボランティアの方に参加して頂き、多様な方との交流を創出する努力を職員一同行っています。社会資源を積極的に利用し地域での映画会、音楽界への参加や公共施設への見学等も随時行っています。地域における開かれた施設として交流センターの活用を提案したり、ホーム内の生活状況を機関紙を通じて発信するなど地域の皆様にご理解頂けるように常に心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市南部の住宅街に位置し、近隣には警察署や消防署、総合運動公園、スーパーマーケットなどの商店が数多くあり、敷地内には「交流センター」や「多目的ホール」が併設され環境に恵まれた事業所である。これらの資源を活用しながら日本舞踊や民謡などのボランティアの受け入れしているほか、「交流センター」を地域サークルの交流の場として開放するなど地域との交流を積極的に推進している。また、地域の運動会やバザー、敬老会などの行事に積極的に参加するとともに、ホームのイベントに地域の方々やボランティアが参加するなど地域社会との交流を重ね、利用者が地域社会の一員として受け入れられるよう努めている。ホーム独自の理念である「明るく元気に挨拶、いつも笑顔で、ゆとりの介護」を折に触れて確認し再認識できるよう職員の指導・教育に意を用いるとともに、家族との情報交換を密にし、ユニット間の様々な交流を企画するなど、利用者がいきいきと生活できるようサービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく元気に挨拶、いつも笑顔で、ゆとりの介護」を理念をかかげ、ホーム玄関、各ユニットのスタッフルームに掲示し常に職員の目にふれるようにしている。日々の支援に反映させている。	ホーム独自の理念をケアの中で具体的に反映できるように玄関やスタッフルームに掲示している。また、管理者からの指導・教育とともに、全体会議や日常のケアの場面などで再確認し、創意工夫しながら実践に取り組んでいる。	事業所はすでに住民の一員として地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っており、開所以来の愛着のある独自の理念にさらに事業所の実状を盛り込んだ地域密着型サービスとして、より良い理念に作り変え更なる向上を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として積極的に情報を発信し理解を得ている。交流センターの活用を提案したり、季節行事への参加やボランティアによる活動を積極的に受け入れている。廃品回収、地域行事等に随時参加している。	地域の敬老会や廃品回収などの行事に参加している。交流センターを地域に開放するとともにホームのイベントにボランティアや地域の方々が参加するなど、地域との積極的な交流に努めており、地域の一員としての関係構築が進められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常時、機会のある度に発信している。ホーム行事、市の出前講座、研修等の参加を通じ実際に理解して頂ける機会を提供させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーの方に、ホーム行事の参加や日常を共に過ごして頂き、利用者様やサービスの実態をみて頂き、意見を伺ったり、状況報告をして話し合いを行いサービスの向上に努めている。	イベントなどの行事終了後に会議を開催するなどして家族の参加を積極的に促し、利用者の生活状況やホームの活動状況、改善点などについて意見交換を行っている。また、会議メンバーに事業所のイベントへ参加いただき、意見・提案等も伺うなど利用者へのサービス向上に努めている。	固定されたメンバーだけでなく、時期に応じた防災や安全などの議題を設定し引き続き消防署や警察署職員の参加を呼びかけ意見交換を行うなど、利用者サービスの向上に活かす工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の一員として地域包括支援センター担当者へ出席頂いたり、問題事例等のアドバイスを頂いたり、地域包括支援センターの行事への参加をし連携を図っている。また市町村会議への参加や窓口等で随時相談、報告を行っている。	日頃から地域包括支援センター担当者にホームの運営や実情等を報告し、適切な指導・助言を得るとともに、管理者や各フロア長が随時に市担当者を訪問してホーム運営に係る助言や指導を受けるなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては定期的に施設内研修の実施、マニュアル作成し、身体拘束の弊害については職員は周知し、ケアを実践している。玄関施錠に関しては常時の解錠は、安全確保の為無理がある為時間を決め適宜に実践している。	身体拘束に関するマニュアルを作成し定期的に職員研修を実施するなど、身体や言葉による拘束をしないケアについて理解を深め、全職員が拘束を排除した支援に努めている。玄関の施錠については時間を定めて開錠するなどの工夫をしながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体、言葉の虐待について施設内研修を行い、職員間で周知している。虐待が疑われる場合には迅速に対応できる体制をとっており、常に管理者、フロア長による注意喚起が行われ、利用者様の身体、精神状態の観察がされている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や後見人制度については折に触れ職員に説明しているが、理解は不十分である。必要のある利用者様には情報の提供や支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族様の意思を尊重し、体験入居時や契約前、契約時、解約または改定等に必要事項を説明し、理解、納得して頂けるよう行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事参加、面会時に随時伺う機会を設けている。普段より気軽に話し合える関係の構築をし運営に反映させている。また相談機関等の紹介も行っている。	運営推進会議や面会時、行事等の機会を捉え、意見や要望等を積極的に傾聴する姿勢が伺える。また、定期的に事業所通信を発行し、事業所の取り組みや利用者の生活の様子を伝え、家族等から意見が出易くなるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見、提案を聞く機会を持っている。全体会議やフロア会議の場を活用し職員全体に話ができる機会を設け運営に反映している。	毎月の全体会議やフロア会議だけでなく日々のケアの中でも意見交換を行うなど、職員の提案や意見を聞く機会を設けている。職員からの提案、改善案については、管理者が法人本部と意見調整し運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部で行われる毎月の管理者会議での報告や本部職員の来所時に意見や要望を伝えたり、個々の能力に合わせてステップアップが図れる環境整備を常時行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTやOffJT研修の機会を設け、個々に合った研修を随時行っている。資格取得を積極的に支援し、学ぶ機会、姿勢を重視している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との連携を図り、互いの行事参加や地域包括支援センター主催の勉強会等に参加している。情報交換などをしながら相互訪問の機会が持てるように働きかけている。他事業者の見学を積極的に実施している。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の身体的、精神的な状態を把握するとともに、生活へのこだわりや不安に思っている事に対して、傾聴する姿勢を大事にしている。本人の気持ちを尊重し思いを受け止める事で、信頼関係を築いていく事を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いに対しては時間をかけて傾聴している。サービス利用に至る迷い、辛さなどを受け止める姿勢を大事にしている。その上で要望等を遠慮なくお話頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族にとっての必要な支援を吟味し見極める努力をしている。自立支援の根幹を理解して頂き、納得いく支援を共に模索していきたいと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、したいこと、役に立ちたいなどの思いを大事に尊重し、積極的に家事や行事の準備などに参加して頂いている。達成された時には共に喜び尊敬、称賛し感謝の気持ちを互い表出している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を常時、機会のある度に報告し、外出や外泊等で共に過ごす関係を大切にしながら、共通の認識が持てるように支援の方向性について確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の訪問にはいつでも気軽に来所して頂けるように、声かけや行事の説明を行っている。ご家族様と過ごす時間を大切に思い出や思いを大事に受け止める支援に努めている。	これまでの馴染みの地域に利用者と職員が訪問する取り組みを行うとともに、友人、知人の訪問時には行事への参加を呼びかけるなど、継続的な関係が途切れないよう、家族と相談しながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の嗜好を考慮し良好な関係が築けるように支援している。孤立することのないように職員が間に入り円滑に交流が図れるよう配慮している。互いに助け合い、譲り合う環境を作り相互の関係性の改善に努めている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も現在の状況などの報告を頂いており、相談等も随時行っている。気軽に来て頂ける関係を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や様子から意向の把握に努めている。また、ご家族様からの情報をもとにご本人の意向をくみ取る努力をしている。ご本人の生活の質を向上して頂くことを目的に検討している。	日頃の生活状況や行動、表情などから本人の思いや意向をできる限り把握するように努めている。職員が利用者に積極的に話しかけ、会話を引き出すことに努めて、本人の意向を推し測っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の自宅訪問やアセスメント、ご家族様からの生活歴の情報収集を行い、利用者様との日常会話の中から情報を得て、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を観察し、会話、言動等で個々人の現状を把握している。また、今までの生活歴を参考に得意とする分野を把握し支援に反映している。強制することなく自信の力を自然に出せる環境作りを心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の会話や様子を観察し記録し、職員間で情報の共有を図り、面会時等にはご家族様に近況報告をし意見要望を伺い、往診時に担当医の意見を聞き毎月、特変事にカンファレンスを実施しその人らしい介護計画を作成、職員で周知、実行している。	各職員が利用者の日頃からの生活状況を的確に把握し、フロア会議や毎月のカンファレンスで検討を加え、担当医や家族等を含めた関係者による話し合いの中で介護計画を作成している。また、本人の状態等に応じて介護計画の見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に利用者様個々の生活記録に日々の様子を記入し、申し送りノートや口頭での状態交換を行い、小さな変化や支援の効果等を話し合い、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様のニーズに即した対応を心掛けている。他科受診、買い物、外出、外食等できる限りの要望に柔軟に対応している。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアとの交流、地域行事への参加、地域民生員、老人相談員との関係持続、消防署による火災、避難訓練の実施や図書館等の公共施設の利用を積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師をご本人、ご家族了承の上でかかりつけ医としているが、希望がある場合はその限りではなく、他医療機関に受診して頂いている。常に医療機関との連携に努めている。	利用者の医療的ケアに万全を期するため、家族等の同意を得ながらホームの協力医療機関をかかりつけ医とすることを基本としている。協力医療機関による月2回の往診や緊急時対応など適切な医療支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他フロアに看護師資格保持者がおり、敵宣、相談し助言を得ている。また、その情報をかかりつけ医に報告し、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けた話し合いを、病院関係者やご家族様と行っている。入院時には介護サマリーを作成し、ホームでの生活がわかるよう情報を伝えている。入院中も面会に行き経過の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調悪化した場合の相談や受け入れ先等を、早い段階からかかりつけ医と話し合い、ご本人、ご家族とその時の状況を共有している。緊急時対応の手順、通院、受診時のマニュアルに従って対応している。	重度化した際や終末期におけるホームでの可能な対応を家族に説明し意向を確認している。また、緊急時対応マニュアルを作成し全職員が共有しながら協力医療機関と連携を図り緊急時の対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修や応急処置マニュアル、緊急時対応の手順を作成し、急変時、事故発生時の対応にあたっている。また、緊急時の対応について常に職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の方と共に防災避難訓練や自衛避難訓練をご家族、地域の方、職員参加で実施、夜間時に備えての少人数での避難訓練の実施も行っている。地域の方に緊急避難所として利用して頂くよう話している。食品の備蓄も行っている。	消防署の指導を受け、家族や地域の住民も参加した避難訓練を実施している他、職員が少ない夜間時の避難訓練も少人数で行うなど、利用者の安全確保に努めている。また、自治会にホームを災害時の避難場所として提供するとともに、非常用食料・飲料水の備蓄も行うなど災害対策に備えている。	夜間時を想定した避難訓練を実施しているが、更に職員が安心して夜間業務に従事できるよう、地域住民も参加した夜間訓練の実施や夜間災害時のより具体的な対応の方策の検討を期待したい。

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助が必要な時でも自尊心を尊重している。言葉かけや対応によって誇りを傷つける事のない様に配慮している。プライバシー保護の為、排泄、入浴、更衣の際に細心の注意をはらい、居室入室時にも了解を得ている。	人格の尊重やプライバシーの確保についての内部研修を行うなど、常に敬意と尊厳を持って対応するよう日頃からの意識高揚に努めている。また、管理者から職員に対し、利用者に対する接遇の重要性について指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に対しては個々の気持ちを尊重し、否定や審判的対応は取らない様に心掛けている。希望の表出がし易いように言葉かけに工夫し、傾聴を実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であるため希望に添えない事もあるが、一人ひとりのペースに合わせるよう心掛け、ゆっくりでも自分でできる事を重視している。できる限り個々のペースを優先するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行ったり、理、美容の有資格職員が1～2月に一度散髪を行い、季節に合わせての整容に気配りしている。希望者にはマニキュアや化粧の支援も随時行っている。着衣は清潔を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを受けているが盛り付けを工夫したり、調理にアレンジを加えるなどしている。また、敷地内で野菜栽培を行い収穫、調理に参加して頂いている。できる限り個々の好みを取り入れ楽しめる様に配慮している。	法人本部から調理済み食材が配食されているが、敷地内で栽培した野菜などを利用者と職員が一緒に収穫して調理をアレンジするなど、食事を楽しむことが出来るよう配慮している。また、利用者と職員が会話をしながら一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは他事業の管理栄養士が作成のため栄養バランスは良い。個々の状態や医師の指示のもとに栄養、水分量等を調整し、トロミアップやスポーツ飲料を利用し水分確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導のもと毎食後の歯磨きや義歯の手入れを促し支援している。口腔の状態を確認し異常があれば歯科受診に繋げている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導時の声掛けに配慮し、リハビリパンツ、パット使用者にも排泄感覚の把握、排泄サインを察知し利用者様の身体機能に応じて、声かけ、誘導を行いトイレでの排泄を行っている。	利用者の日々の行動やモニタリング、サービス担当者会議の要点などから一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、排泄サインを察知し自尊心に配慮した声かけや誘導などにより、排泄の失敗軽減やパット使用の削減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様個々の体調に合わせた調理を心掛けると共に水分の適正補給に努めている。体操、歩行を促し腸内の蠕動運動が円滑に行える様配慮している。不穏、発熱、腹痛時には便秘の有無を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は本人の意向を訊き柔軟に対応している。時間帯は午前中に実施しているが、希望があれば臨機応変に対応している。入浴時にはゆったりできるように余裕を持ち見守り、介助している。	午前中の中入浴を基本としているが、利用者の意向や体調に合わせて臨機応変に入浴出来るよう配慮している。季節に応じて柚子やバラ等を使用するなど、週2回以上の入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安眠できるように生活習慣を尊重し、室温、衣類、寝具等の調整をし本人の希望に添ってゆつくりと休める支援をしている。入眠時にはラジオやテレビを楽しみ、自然に入眠できるように見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容、目的、容量、副作用等を理解し、処方箋や薬剤師より情報を得ると共に、かかりつけ医より詳細な指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を知ることで、昔やっていた事、得意だった事を暮らしの中に活かせるようにしている。個々に合った役割(掃除、調理の下ごしらえ、洗濯干し、畳み等)を持ち、嗜好品、興味のある事等を把握し支援に活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出希望にもできる限り対応し、買い物、散歩、季節を感じる外出・外食等も毎月実施し、ご家族様も一緒に出掛けている。また、ご家族様と墓参り、お盆、お正月等の外出、外泊も実施している。地域行事(音楽会、映画会、敬老会、運動会)への参加もしている。	普段から利用者の外出希望に出来る限り対応するよう配慮するとともに、季節に応じた近隣の公園散策や音楽会、映画会など、毎月の外出支援に努め気分転換を図っている。また、家族との外出支援や地域行事への参加にも取り組んでいる。	

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望や能力に合わせて、お金の所持を一部行っている。移動パン屋での購入や模擬喫茶などのイベント時にお財布を準備して、現金を使用する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの希望があれば手紙、電話等の支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、楽しく、落ち着く、家庭的な空間を目指している。フロアの共有テーブルには季節の花を飾ったり、皆さまで協力した創作活動作品等を飾って季節感のある共有空間作りをしている。玄関には常時歓談できるように応接セットを置き自由に使用して頂いている。	玄関やフロアなどの共用空間には季節感のある花や手作りの作品、記念写真などが装飾されている。天窗やガラス窓からの自然採光を活かすなど、明るく落ち着いた雰囲気の中でゆったりとくつろげるよう工夫を凝らしている。また、利用者がソファを自由に使用するなど居心地良い空間作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室はプライベートが守られている。共有のフロアでは自由に座れる場所があり、気の合う方々が集まり歓談できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室で落ち着いた生活が送れる様、馴染みの家具や装飾品を持ってきて頂いている。また、イベントの写真や飾り、季節の創作物を居室に飾っている。	箆笥とベッドは備え付けで、家具や装飾品などの馴染みの物品を居室等に配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、リネン類は清潔に保たれるよう定期的な交換に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所を解りやすくするために、居室入り口に名前を大きく書いたり、トイレ、浴室には案内標識を設け解りやすく、自立した生活が送れるよう環境整備に注意を払っている。		